

安全管理体制指針・マニュアル改版

平成27年12月1日改訂

医療機関における医療事故の問題が様々に取り上げられています。当院でも「安全で質の高い医療」、「信頼される医療」の提供を目標に日々取り組んでいます。「人間はエラーをおかす」という認識に基づき、病院全体のシステムの問題として「医療安全管理」に取り組まなければなりません。「医療安全管理指針」では、「医療法」の改正による「医療事故調査制度」への対応も新たに含まれた内容となっております。

「共通マニュアル」では主なものとして「誤認防止」「伝達エラー防止」「アレルギー対策」「造影剤腎症予防対策」等が見直しされています。各種マニュアルは当院の標準となるものです。医療安全管理のプロセスとして常に意識され、継続的発展につながるよう皆さまの知見に期待します。

第2回医療安全研修会 開催 「医療安全活動報告会」

平成27年11月26日(木)、午後5時30分から6階多目的ホールにて「医療安全活動報告会」と題して医療安全研修会が開催されました。当日 218名、院内LAN・DVDにて146名 合計364名の参加がありました。院内を代表して、5部署から「医療安全活動報告」がありました。

演題1 「小児の安全な酸素吸入」 4階西病棟 看護師 長井富美子

小児疾患の勉強会や、酸素テントの講習会開催など、スキルアップを行ったこと。

演題2 「鎮静剤使用に関する取り組み」 内視鏡センター 看護師 宮下美紀子

鎮静剤使用時の注意事項を理解していただくための工夫。

演題3 「転院時における患者情報の共有化」 地域医療連携部 事務員 森本さやか

他院から転院の患者情報の確実な引継ぎと情報共有のための運用を検討、実施。

演題4 「MR室における事故防止啓発活動」 中央放射線部 放射線技師 向義博

MRI検査の説明文書にイラストを挿入しわかりやすくしたこと、待合に大きなパネルを掲示し、患者さん自ら質問されることもあり撮影トラブル防止に効果をあげている。

演題5 「配膳車・下膳車運用の見直し」 シダックス マネージャー 川口千恵

院内ハザードマップを作成し危険箇所を情報共有。朝礼時の唱和を通じ職員の意識向上を図る。

発表後、活発な質疑応答が行なわれました。また、アンケートからも 各部門の熱心な取り組みを知ることで大いに意識の向上につながるとの感想が多数寄せられました。



回覧																			

医療安全通信は、各部署で回覧サインし、保管をお願いします。

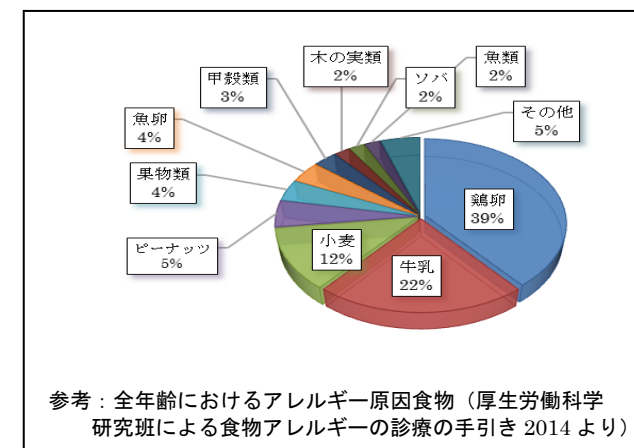
食物アレルギーに注意！！

食物アレルギーとは

食物アレルギーは、特定の食物を摂取した後、免疫機序を介して生体にとって不利益な症状がでることをいいます。

食物アレルギーの原因

年齢によりアレルギーの原因食物が若干異なり、小児は卵・牛乳・小麦・大豆など、成人は甲殻類・小麦・果物・魚類・蕎麦などが多くとされています。小児はその症状が自然に治まっていく自然寛解が多いのですが、成人は治りにくい傾向があります。



食品のアレルギー表示について

平成13年より、発症件数が多いものや、発症した際の症状が重いものについて、食品に使用した場合の表示を食品衛生法上義務付けられました。

規定	アレルギーの原因となる食品の名称	表示をさせる理由	表示義務
省令	卵、乳、小麦、えび、かに（5大アレルゲン）	発症件数が多いため	表示義務
	そば、落花生（7大アレルゲン）	症状が重くなることが多く、生命に関わるため	
通知	あわび、いか、いくら、オレンジ、キウイフルーツ、牛肉、くるみ、さけ、さば、大豆、鶏肉、バナナ、豚肉、まつたけ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン	過去に一定の頻度で発症が報告されたもの	表示を奨励（任意表示）

食物アレルギーの症状

原因となる食物を、一定量（最低量）を超えて摂取すると症状が発現。最低量は個人差がある。

- 【皮膚症状】 痒痒感、じんましん、血管性浮腫、発赤、湿疹
- 【粘膜症状】 眼症状：結膜充血・浮腫、痒痒感、流涙、眼瞼浮腫
鼻症状：くしゃみ、鼻汁、鼻閉
口腔咽頭症状：口腔・口唇・舌の違和感・腫脹、咽頭の痒み・イガイガ感
- 【消化器症状】 腹痛、悪心、嘔吐、下痢、血便
- 【呼吸器症状】 喉頭絞扼感、喉頭浮腫、嘔声、咳嗽、喘鳴、呼吸困難
- 【全身性症状】 アナフィラキシー：多臓器の症状
アナフィラキシーショック：頻脈、虚脱状態（ぐったり）、意識障害、血圧低下